

中国における大学入学試験制度改革の現状と課題

—「自主学生募集」に焦点をあてて—

宮 玉 婷

はじめに

中国では、大学に入学するために、「全国普通学校招生考試」という全国統一大学入学試験を受け、点数が志望大学の合格最低点に達する必要がある。この試験は、中華人民共和国教育部（以下「教育部」と略記）の「全国高等教育機関の1952年度夏期学生募集に関する規定」¹により、1952年から導入された。その後、1966年に文化大革命によって一時廃止されたが、11年後の1977年には再開されている。1990年代後半からは、「科教興国」²戦略における教育の質の向上、大学の運営自主権の拡大などへの対応として、大学入学者選抜方法の見直しが行われてきた。各大学の特色や需要に応じて、入学志願者の能力・適性を多面的に判断できる大学入学者選抜方法が求められ、2003年度より、一部の大学で「自主学生募集」（原語は「自主招生」）という新たな制度が導入された。

「自主学生募集」制度を紹介した先行研究には、羅（2007）がある。羅は、民国時期³から近年までの中国の大学入試制度の歴史を詳述し、その中で「自主学生募集」にも言及している。同研究は、中国の大学入学試験制度の歴史的考察を通じ、大学入試政策の変化との背景及び意義を検討した研究である。重要な先行研究である。また、南部（2008）は、「自主学生募集」制度の導入と展開を紹介している。しかし、近年の政策、特に北京大学の「中学校長実名推薦」制度については言及されていない。

本稿の目的は、自主学生募集に焦点をあてて、中国の大学入試制度の現状を明らかにすることである。この目的を明らかにするために、①全国統一大学入学試験の概要、②「自主学生募集」制度導入の背景、③「自主学生募集」の実施方法、④北京大学における「中学校長実名推薦」制度の4点について明らかにすることを課題として設定した。

1. 全国統一大学入学試験の概要

全国統一大学入学試験は、成人大学を除く大学の入学者のほとんどを決定する一発勝負の試験であり、実施は年に一回、2003年度からは基本的に6月7日～10日の3日間、全国で実施される。試験の科目は国語、数学、外国語、総合科目⁴の4つがあり、選択問題、穴埋問題と論述問題等からなる。一教科150点で、総合点は750点満点である。教育部の試験センターである「考試中心」が作成した全国統一問題以外に、省統一問題として各省の教育庁が作成した問題を使用することも可能である。全国あるいは省統一のどちらの問題を使用するかは、年度ごとに各省が決定する。

受験者資格については、教育部の「普通高等教育機関学生募集規定」⁵により、①中華人民共和国憲法及び法律を守ること、②高等学校卒業あるいはそれに準ずる学歴を有すること、③身体の健康⁶の3

点が規定されている。

募集人数の確定方法は、まず全大学の学生募集の総数を、国家教育部門と企画部門が全国の経済・社会の発展状況と大学教育発展状況によって決定する⁷。次に教育部が、統一大学入学試験前に、各大学の募集数の枠を確定する。大学は、確定した募集人数に基づき、各学部・専攻の募集人数、各専攻の地区ごとの募集人数を決め、新入生募集計画を立てて、省の学生募集委員会に届けるという方式をとっている⁸。

出願の方法も、各年度の「普通高等教育機関学生募集規定」⁹により定められている。2008年度の規定によれば、受験生は各大学の学生募集要項と各省が公布する学生募集規定に従い、受験する大学と専攻を選択する¹⁰。大学は（大学ランキングによって）大きく5グループに分けられ¹¹、省で定められた順序に従い、グループに属する各大学が受け入れる学生を決定する。各大学の学生募集人数と受験生の試験の成績を総合的に考慮し、各グループの合格可能最低点が省ごとに設定される。合格するためには、統一試験で取得する点数が志願大学の属するグループの合格可能最低点¹²に達しなければならない。総合得点は750点であるが、グループを分ける最低点数の差は1点、2点であることもあり、1問の正誤により大きく結果が異なってくる。

以上のように、全国統一大学入学試験は年に一度きりの試験であり、希望の大学に進学できるか否かは、この試験の結果にかかっている。1990年代以降、受験競争の過熱による様々な弊害が指摘されるようになり、導入されたのが次に取り上げる「自主学生募集」である。

2. 「自主学生募集」制度導入の背景

上述したように、1990年代以降、大学入学試験制度が見直され、多様化政策が求められた。そのための改善策として導入されたのが、「自主学生募集」制度である。

同制度導入の直後の契機となったのは、1998年に、教育部により公布された「21世紀を目指す教育振興行動計画」である。これは、「中国共産党第15回人民代表大会で制定された目標と任務を実現し、科教興国戦略を実行し、教育改革と発展を全面的に推進し、全民族の素質と革新能力を高める」ために策定された計画である。そのための方策として、学生募集制度の改革をいっそう進めることが課題として挙げられた。そこでは、大学における公平な人材選抜、大学の自主権拡大のため、①全国統一大学入学試験の科目、内容、方法の改革、②学生の能力と総合的な素質に関する検査比重の増加、③地域や機関の特徴に応じた学生募集、試験、評価の方法の模索が提案された¹³。これらの点を踏まえ、教育部は単純に一度きりの学力試験の成績で合否を決めるのではなく、大学の多様な評価にもとづいて入学者を選抜する制度を充実させることを目的として、「自主学生募集」を導入した。

大学が自主的に学生の選抜を行う方法として、「自主学生募集」が導入されたのは2003年からである。中国において、大学入試実施要項にあたるのは、教育部から出される「大学学生募集の実施に関する通知」である。2003年度の通知では、「自主学生募集」制度の導入の目的について、次のように記している。「大学入試制度改革のいっそうの促進し、大学の学生募集自主権限の拡大、革新的人材の育成、素質教育¹⁴の全面的な推進のために、2003年度より一部の大学で自主学生募集を実験的に展開する」。この通知によれば、「大学及び省（自治区、直轄市）大学学生募集委員会事務室は、革新的な人材の選抜と専門教育の需要」¹⁵により、統一入試を主としながらも、多元的評価と多様な選抜

制度を導入することが求められている。

このように、自主学生募集の導入は、学生の個性・適性による新たな入学者選抜方法として導入されたのである。

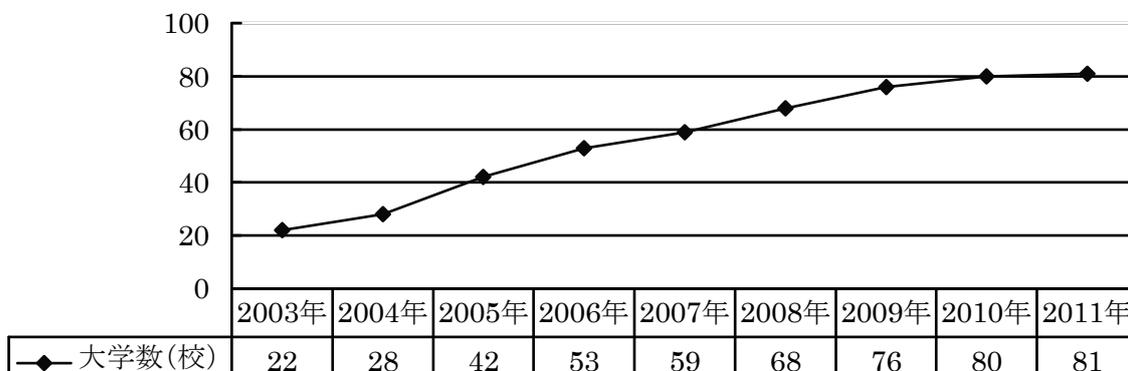
3. 「自主学生募集」の実施方法

2003年度の学生募集においては、全国で22大学が「自主学生募集」を実施することになった。自主学生募集制度における募集定員数は、教育部による各年度の「大学自主選抜募集の実施に関する通知」によって規定される。同制度が導入された2003年には、「大学自主選抜募集改革の試験的な実施に関する通知」が出された。その通知は、1) 理念と原則、2) 募集計画、3) 募集プロセス、そして実施規範と同年度に自主学生募集を実施する大学名簿を記している。「募集プロセス」の項目に定員数に関する記述があり、「自主学生募集の定員数を各大学の当年度における学生募集総数の5%以内にする」と規定された。

学生募集の手順は、まず各大学の選抜条件を満たす受験生が、出身高校あるいは専門家¹⁶の推薦もしくは自己推薦により、必要な資料¹⁷を大学に出す。大学は専門家グループを組織し、自らが確定し公示した条件と方法に従って受験生の資料を審査するとともに、学力試験や面接試験などで評価し、結果審査を行って合格候補者を決める。大学が審査の認定を行い、合格受験生の名簿を確定する。4月中旬頃、各大学は合格者名簿を各省教育の担当部局に提出し、認定された名簿が5月に教育部より公示される。

合格者名簿に記載された受験生も、全国統一大学入学試験を受験しなければならない。自主学生募集を実施する大学は、当該大学の合格最低点よりも何点か低い点数¹⁸を設定し、それを超えていれば合格とすることが多い¹⁹。

つまり、「自主学生募集」制度とは、大学自らが定めた出願条件や選抜方法に従い、全国統一大学入学試験の実施に先立って優秀な学生を選抜する入試制度である。自主学生募集を導入している大学は、2003年には22校であったが、2011年は81校に増加した。図表1は、2003年度から2011年度までの、中国における自主学生募集実施大学数の推移を示したものである。



図表1 中国における「自主学生募集」実施大学数の推移（2003-2011年度）

大学の学生募集における自主権限をいっそう拡大するために、2009年度から自主学生募集の定員比率に関する規定が柔軟化された²⁰。しかし、2011年度に出された「大学学生募集の実施に関する通知」（2012年度）によって、「5%以内」という規定が再び強調されている。2011年4月現在、全国に2,429校²¹の大学があるが、自主学生募集を導入している大学は3.33%でしかない。羅（2007）も、「社会の発展需要に比較すれば、現今の大学入試改革は非常に遅く、5%の自主学生募集定員枠も少ない」と指摘している。

このように、「自主学生募集」を実施する大学数は増えてきてはいるが、全国的にみれば非常に小規模であり、このような特別な方法により選抜される学生数は非常に少ないのが現状である。

4. 北京大学における「中学校長実名推薦」制度

「自主学生募集」の新たな形態として、2010年度より、北京大学において「中学校長実名推薦」が実施されている。この入試の受験資格は、高等学校の優秀な総合成績・能力を有する者、あるいは特定の教科の優秀な成績を有する者に限定される。北京大学への推薦の資格を持つ高等学校²²は、定員枠内で優秀な生徒を推薦する。「中学校長実名推薦」の募集定員枠は、原則として全体募集定員の3%までとするが、場合によっては学校や受験生の状況に合わせて増減されることもある。

「中学校長実名推薦」は、このように推薦資格を与えられた高等学校の校長のみが行うことができる。推薦資格の認定手続きは、まず校長が学校あるいは本人の名義で北京大学招生事務室に「実名推薦」に関する申請を出す。北京大学の「自主招生専門家委員会」は、高校の教育成果と学習の雰囲気等を評価し、認証を受けた高校に「実名推薦」資格を授与する（高校の校長が替わる場合、新任の校長がもう一度北京大学に申請しなければならない）。

試験の方法は、一般の自主学生募集とほぼ同じく、適性試験（小論文等）と面接試験である。不正行為（賄賂等）を防止するために、推薦された受験生に対して北京大学が資料審査²³を行っている。前述の審査を合格した受験者は、筆記試験が免除され、同大学において面接試験を受験する。合格した者は、全国統一大学入学試験を受験する時に北京大学の合格ラインより30点ほど低い点数で合格できる。

このように、「中学校長実名推薦」は、受験生の個性・適性を測るとともに、入試の公平性と透明性を保障する大学入試制度であると考えられる。

おわりに

本稿では、自主学生募集に焦点をあてて、中国の大学入試制度の現状を明らかにすることを目的として、以下の4つの課題について明らかにしてきた。

① 全国統一大学入学試験の概要

全国統一大学入学試験の実施時期、出題方法、受験資格、学生募集プロセスの概要を確認した。同試験は年に一回のみであり、1点、2点の得点の差が合否を左右するために受験競争を過熱化させてきたこと、また一元的な評価であり、多様な人材を選抜することが困難であるという問題点が指摘できる。

② 「自主学生募集」制度導入の背景

1990年代以降、大学入試制度における多様化政策が求められてきた。同制度導入の直後の契機となったのは、革新的な人材育成を目指した「21世紀を目指す教育振興行動計画」（1998年）である。こうした背景の下で、学生の個性・適性による新たな入学者選抜方法である「自主学生募集」制度が導入された。

③「自主学生募集」の実施方法

「自主学生募集」は、原則として大学が自ら設定した出願条件や選抜方法に従い、全国統一大学入学試験の実施に先立って優秀な学生を選抜する入試制度である。2003年度より、一部の大学に導入されたが、実施大学数、募集学生数共に全国的にみれば非常に少ないのが現状である。

④北京大学における「中学校長実名推薦」制度

2010年度に北京大学に導入された新たな「自主学生募集」である「中学校長実名推薦」制度の実施方法を明らかにすることを通して、同制度は受験生の個性・適性を測るとともに、入試の公平性と透明性を保障する大学入試制度であることが分かった。

これまで見てきたように、「自主学生募集」は、全国統一大学入学試験の成績のみならず、多角的な評価基準で受験生の能力評価する新たな大学入学者選抜方法である。小論文や面接試験等を通して、適性と総合能力によって受験生を選抜するこの新たな入試の導入の背景には、多元化社会の発展に求められる人材育成政策がある。2003年より導入され、10年ほどが経過したが、その規模はまだ小規模で、この入試制度を活用できる受験生はごく一部である。「自主学生募集」の新たな形態として導入された北京大学の「中学校長実名推薦」の場合には、受験生の在学する学校によりその機会も制限される。地方の学生の場合、この入試で北京大学を受験することは非常に困難である。つまり、全国統一試験の成績は、依然として合格者の選抜の軸にあり、受験競争はますます過熱してきている。今後、大学入試制度改革より一層、推進していくことが必要であろう。

本稿では、「自主学生募集」の制度面について明らかにしてきた。同制度の運用実態の解明については、今後の課題としたい。

参考・引用文献

- ・ 羅立祝『高校招生考试政策研究』、華中師範大学出版社、2007年
- ・ 南部広孝『中国高等教育における入学者選抜方法の多様化に関する研究（課題番号 16730411）』、2007年
- ・ 南部広孝『中国の大学入学者選抜における「自主招生」の現状（資料集）』、2008年
- ・ 中華人民共和国教育部ホームページ<http://www.moe.edu.cn/>（2012.2.8）
- ・ 阳光高考ホームページ<http://gaokao.chsi.com.cn/>（2012.2.8）

宮 玉婷（筑波大学大学院人間総合科学研究科教育学専攻 前期1年）

-
- 1中国の新学期は毎年の9月から始まり、学生募集が夏に行われる。
- 2科教興国：1995年5月6日に公布された「中共中央国務院の科学技術の進歩を加速するに関する決定」に提出された。科学技術と教育を第一生産力とし、それで国家の技術力及び全民族の素質を高める。
- 3中国国民党統治の中華民国時期（1912－1949年）。
- 4一部の省において、総合科目は文系総合科目と理系総合科目に分けられている。
- 5 参照：教育部「2009年普通高等教育機関学生募集規定」
http://www.moe.edu.cn/publicfiles/business/htmlfiles/moe/moe_297/201001/79905.html (2012.2.8)
- 6中国の新学期は毎年の9月から始まり、学生募集が夏に行われる。
- 6大学入試の前、受験生は統一的に健康診断を受ける。
- 7参照：教育部「2009年普通高等教育機関学生募集規定」
http://www.moe.edu.cn/publicfiles/business/htmlfiles/moe/moe_297/201001/79905.html(2012.2.8)
- 8各大学は、「中華人民共和國教育法」「中華人民共和國高等教育法」及び教育部の相關規定に従い、当年度の「学生募集要項」を作成し、省の学生募集委員会に提出する。
- 9参照：中華人民共和國教育部ホームページ <http://www.moe.edu.cn/> (2012.2.7)
- 10受験生は願書を配布される。各省の学生募集政策によって、出願方式は異なり、受験前に出願を求める省もあれば、受験後に願書を求める省もある。
- 11全国の大学は、重点本科大学、一般本科大学、独立学院及び専科大学等でランキングされる。大学の教育成果等によって変更が可能。
- 12各省レベルの学生募集委員会は、高等教育機関が当省における学生募集定員数と受験生の得点を考慮し、各グループの当省における合格ラインを決定する。
- 13参照：教育部「面向21世紀教育振興行動計画」中華人民共和國教育部編『面向21世紀教育振興行動計画學習參考資料』北京師範大学出版社、1999年、pp.3・20
- 14素質教育：被教育者の各方面の素質の向上を図る教育モデルであり、人間の思想道徳素質、能力の育成、個性の発展、身体健康と心理健康の教育を重視する。
- 15参考：教育部「教育部办公厅關於做好高等学校自主選拔錄取改革試點工作的通知」
http://www.moe.gov.cn/publicfiles/business/htmlfiles/moe/moe_1001/200507/9382.html (2012.2.8)
- 16各学科領域の専門家、研究者及び大学の先生等。
- 17例え、成績証明書、全国コンクールで獲得した受賞証明書等。
- 18満点750点の場合、合格最低点より10-30点低いラインを設定する大学が多い。
- 19受験生は、複数の大学に合格する場合、自ら進学大学を決める。ある大学の自主選抜への可否を問わず、全国統一大学入試の成績で他の大学に行くことも可能。
- 20「大学自主選拔募集改革の試験的な実施に関する通知」（2009年度）では、「優秀な受験者が多い場合には、大学が教育部の同意を得て」、5%を超えることも可能とする。
- 21高等教育学歴の学生募集資格を有する大学、独立学院及び分校の総数。
参照：<http://gaokao.chsi.com.cn/gkxx/ss/201104/20110429/200602864.html> (2012.2.8)
- 22北京大学の自主学生募集事務室に学生推薦資格を与えられた高校は、2010年度に全国39校、2011年度に全国161校がある。
- 23書類の真偽、欠損等についての審査。